



八千代市郷土歴史研究会
 会長 村田一男

事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

***** お知らせ *****

平成21年度定期総会のお知らせ

4月5日(日) 八千代市立郷土博物館にて

・ **定期総会** 10:00~12:00

会員の皆様には、このお知らせをもって総会開催通知といたします。

ご欠席の方は委任状を、事務局までお送りください。(メール・FAX・はがきで、書式は自由)

・ **学習報告会** 14:00~15:30

会員の調査・研究を報告します。

・当日は正覚院の花祭りです。

御開帳中の釈迦像を昼食休憩時に拝観できます。

***** 報 告 *****

11月29日~30日

八千代市民文化祭 ふるさとの歴史展
「旧村のいま・旧平戸村のすがた & 大和田新田拾遺」

勝田台文化プラザ 2階展示室において、11月29日と30日の両日、大盛況に行われました。

参加者数

11月29日(午後1時~午後5時)

お客様 56名 会員 38名 計 94名

11月30日(午前9時~午後4時)

お客様 64名 会員 33名 計 97名

＝例会のご案内＝

2月15日(日) 学習会 13:30~16:00

- ・八千代市立郷土博物館図書資料室にて
- ・「睦村誌」を読み、平戸村を知るヒントを得て、次の課題を考える。
- ・21年度日程の調整

3月15日(日) フィールドワーク

- ・八千代緑が丘駅発 13:35 船尾行きバスに乗車
- ・印西から平戸を観る(千手堂跡など)

4月29日(祝) フィールドワーク

- ・八千代緑が丘駅発 13:35 木下駅行きバスに乗車、平戸入口バス停で下車のこと
- ・平戸周辺(佐山・島田台)の探訪

5月17日(日) 例会 学習会 13:30~16:00

- ・八千代市立郷土博物館学習室にて
- ・研究課題の確定及び担当の検討
- ・郷土史研通信 66号発行予定



11/30 豊田市長がご来場

＝ 展示の内容 ＝

今年(平成20年度)の研究テーマは、二つです。

- ・旧大和田新田の総合研究《特集1》
- ・旧平戸村の総合研究《特集2》

特集1は、旧大和田新田の研究(一昨年からの研究を延長し、この発表をもって研究の終了)

特集2は、平戸村がテーマです。

⇒展示内容は次ページ、12月と1月の例会報告は4ページへ

《特集1》旧大和田新田の総合研究そのⅢ

1. 「白井富美子家文書」：関和・菅野・平塚・佐藤二郎
足掛け2年にわたる解読研究の成果から、名主善兵衛の村政や特色ある文書を展示しました。

2. 八千代工業団地の成り立ち：佐藤二郎

昭和35年に『内陸工業用地造成計画』を策定、大和田新田地区に工業団地が造成され八千代市制施行へと地域経済発展の原動力となりました。

大和田新田地区の工業団地に進出した企業の生産様相を細かに分析し、約40年、市勢発展とともに生産に励まれた事業所の足跡を展示しました。

3. 大和田新田今昔：牧野

大和田新田の変貌が激しい地点をいくつか選び、約20年前と現状とを写真で比較しました。

4. 大寺院：平塚

大和田新田下区公会堂に遷座した吉橋大師第32番札所の過去の歴史をたどりました。



《特集2》旧平戸村の総合研究・そのⅠ

1. 平戸村の紹介：村田

平戸は印旛沼の最西端にあり、古くから交通の要路で、印旛沼開発のための水を落とす堀割の基点でした。(明治時代中期の銅版画「印旛八景」には「旧堀割」とある。)村の特徴を案内しました。

2. 平戸の地名：滝口

大字平戸とその中の小字を歴史学・地誌学・自然科学の角度から解明しました。

3. 石造物：小菅・鈴木登

平戸の台地の一角には石造物が集積されています。その特色ある様相を紹介しました。

4. 軍馬頭観世音：牧野

日露戦争時に戦線へ徴発された愛馬の供養塔を紹介しました。

5. 平戸の除隊記念道標：佐久間

「昭和六年(1931)三月 歩兵少尉中臺鴻亮除隊記念」の2基の道標はどこにあったのか。さらに中臺鴻亮氏の事績も紹介しました。

6. 平戸村の屋敷氏神：小林

ムラの家には家と生業を守る大切な屋敷氏神が祀られています。家ごとに調査し、ムラ全体の祭神を説明しました。

7. 平戸からの献上米：田村

勤労感謝の日に皇室では新嘗祭が行われ、神に供える新穀を毎年全国の有志が献上されます。

昭和55年、平戸の中臺達雄・富枝ご夫妻が精米を献上された様子を展示しました。

8. 平戸の遺跡の概要と平戸台8号墳：藤

佐山貝塚や田原遺跡に隣接した平戸地域では、新県道建設に伴う道地遺跡の埋蔵文化財発掘調査で、弥生後期～古墳時代の住居址などが明らかになりました。またこの夏、平戸台8号古墳が完全な形で発掘調査され、人骨・副葬品などが検出された。これら、8号墳の報告を中心に遺跡の概要と調査の過程を展示しました。

9. 民俗行事「大川施餓鬼」と「お釈迦講」：藤

平戸は日蓮宗のムラ、日蓮宗の行事「神保組千部講」が活発で、今年平戸の東照寺による「大川施餓鬼」が12年ぶりに盛大に行われました。

またムラの女人講に匹敵する「お釈迦講」の様子も紹介しました。

《新資料紹介》島田妙泉寺の梵鐘銘文：藤

太平洋戦争で供出された妙泉寺の釣鐘で、供出する時の記念写真とそのとき記録した鐘の銘文が残っていました。この度、妙泉寺ご住職様のご好意により、現代史を語る貴重な史料として展示発表しました。

《郷土史研活動状況》：牧野・羽計・藤

当会1年間の活動の写真を展示、説明しました。

東京成徳大学房総地域文化研究プロジェクト
特別講義を当会が担当！

平成20年12月12日(金)東京成徳大学306教室において同大学房総地域文化研究プロジェクト主催の特別講義として「八千代市郷土歴史研究会」会員三氏が招聘され、一般聴講者と単位取得学生で埋め尽くされた教室でそれぞれ調査研究の「地域研究から見える歴史」の講義がおこなわれました。

八千代市郷土歴史研究会の紹介と概要

村田一男会長

当会は昭和48年(1973)に発足以来36年になり、ますます成熟した地域研究をめざしてはげんでいます。会員は20才から101才の70名です。

本日は皆様に私達のささやかな研究をお話できることは大変光栄であります。

今までの研究の中から三つを選んで発表いたします。この三つの発表で、村の歴史や文化を手がかりが生き生きと伝わるとおもいます。

「八千代の俳諧文化」

講師：関和時男会員

八千代に残されていた民衆俳諧文化について、地域に残されている句額は7枚、草稿句集は10余り、すべては明治期末のものである。

句額は明治期に花咲いた俳諧文化を担った民衆の素顔を見せてくれる。

その頃中央では正岡子規が新「俳句」論を唱え俳壇が大きく変わりつつあったが、八千代の俳諧は明治の残り香のする俳諧であった。

その句額の中で特色のある「高本八幡神社明治29年奉納」の額は、「高月」という青年俳人が近衛兵として入営するに際して、多くの俳人仲間が寄り合い句会を設けて別離の心情を17文字に託して奉納した貴重な句額である。

句額に記された俳人の数も多く、米本の東州外21名、吉橋の峯山外20名、麦丸の桜吾外14名の総数137名に及ぶ。旭生堂東州・市中庵随楽・太田亭可楽等の市内の俳人、八木ヶ谷の升月亭居、山、船橋のこう明楼岱以、東京の鶯亭金升等の紹介、居山・金升の『俳諧百吟逸趣』の紹介がなされた。

「明治維新の近代曙に生きた佐倉藩士

—小柴宣雄—

講師：畠山隆会員

・小柴宣雄の佐倉藩での略歴について

文化14年(1817)、佐倉藩士の子として生れ、幼名は常三郎、33歳のとき新一郎と改名、さらに晩年宣雄と改めた。

・晩年を過ぎた大和田新田時代の宣雄

大和田新田上区の八幡神社境内手水石の台石(明治14年銘)に、村の有力者とともに奉納者小柴宣雄の名が刻まれている。

・宣雄が残した「松前随行日記」

・会津戊辰戦争で散った長男小次郎、依田学海が後に『小柴重稷殉節の始末』を発表している。

碑文の撰文は依田百川(学海)。現在の墓地は小柴家とは縁のない地主の方の善意で守られているが、296号線道路拡幅の予定区画でもあり、このままでは将来撤去されることも予見される。

この碑に限ることではないが、歴史を語る貴重な石造物を今後どのように維持管理していけば良いのか、とても大事な問題である。

「古文書に見る名主善兵衛の村政」

講師：菅野貞男会員

古文書は、江戸時代に書かれた地方文書、すなわち農村に関係する文書のことです。

次に「名主」とは、江戸時代の村方三役の一つで、村の長で村政一般を司る人である。村落を統括し、領主からの命令を農民に伝え、また農民の希望などを領主に伝えることなどを行っていた。

また年貢の徴収・納入の請負、入会地・水利の維持管理など、農民生活全般についての管理・監督を行う役目である。名主は関東地方の呼び名、関西方面では庄屋とよばれていた。名主善兵衛は白井の姓を名乗り、下総国千葉郡大和田新田善兵衛組の名主である。大和田新田は二人の名主が存在し、他方は佐五兵衛組の名主佐五兵衛で、代官支配の幕府領である。村高は558石6斗6升3合、年貢の徴収について、年貢=税金、江戸時代の年貢は村単位で納めることになっていた。

年貢徴収は、まず代官所からの「年貢割付」により、その年の年貢高が決定する。「大割勘定帳」名主の役割は責任が重く非常に大変であった。

【記：関和時男】

2009年正月7日

目黒七福神巡りに参加して

成田 忠志

年末から年始にかけて自宅に燻りおまして、地元の神々にも年始回りも出来ずにおりましたが、今回思いがけずに江戸七福神巡りをさせて頂きました。



今回のスケジュールは、覚林寺（毘沙門天）・瑞聖寺（布袋尊）・妙円寺（福祿寿・寿老人）・大円寺（大黒天）・蟠龍寺（弁財天）・滝泉寺「目黒不動」（恵比寿）の他、途中、八百屋お七に関連する大円寺や大鳥神社・五百羅漢寺等を見学するため、白金高輪駅から目黒駅を經由して五反田駅の解散コースでした。

距離的にもそうきついコースではなく、37名の参加者も会員の懇切丁寧な説明を伺いながら楽しく歩かれており、又、自分にとりましても江戸時代の寺院や仏像を拝見できたことや、特に、松雲禪士が作られた約三百体の五百羅漢に圧倒され、八百屋お七の魂を救うために約四十七年も西雲が目黒不動と浅草観音に毎日参拝したという話を伺ったのが心に残っております。

五反田駅前での反省会には有志が約二十人ほど残り歴史談義に花が咲きましたが、多くの方々から歴史に関する課題を伺えましたことも、大きな収穫となりました。

2008年12月14日（日）12月例会の報告

東葉線八千代緑ヶ丘駅改札口に13:30に14名が集合し、「大和田新田の今昔」のポイントを見て回りました。心配された雨も歩き出す頃に止み、少々寒かったですが、緑ヶ丘駅～296号線小柴家の墓地～新木戸三叉路血流地藏道標～緑ヶ丘駅を元気よく歩きました。終了後、恒例の忘年会を八千代台駅前のお店で開き、20名が参加しました。

＝会員近況報告＝

藤本涼輔会員が「二十四孝のルーツ」講演会

2008年8月9日、千葉県郷土史研究連絡協議会（郷土研）の文化講座に藤本会員が招かれ「二十四孝のルーツを追って」と題する講演会が行なわれました。場所は千葉市中央区の千葉市文化センター、参加は郷土研の会員約70名、当会からは7名が聴講しました。



藤本会員は國学院大史学科3年で、二十四孝の研究も中国の文献・墳墓にまで及び、ますます専門的な研究報告でした。特にシルクロードとの関連が研究のキーワードになっていることを発表し、参加者から賞賛されました。【記：鈴木 登】

滝口昭二会員が船橋市考古学講座で講演

2009年1月24日、海神公民館で船橋市飛ノ台史跡公園博物館主催の考古学講座が開催され、滝口会員が「縄文時代の船橋の地形－飛谷津を中心として－」と題して120名の市民を前に講演され、当会からは私を含め2名が聴講しました。

船橋の地形を例に、谷津や砂丘などの地形が形成される過程とそれに伴う地名、縄文海進・海退の状況と遺跡との関係などをわかりやすく説明いただきました。【記：蕨 由美】

＝新会員紹介＝

篠宮 勝之 （村上在住）

成田 忠志 （村上団地在住）

☆ 編集後記 ☆

新会員を迎えての目黒七福神めぐり。大円寺の清涼寺式釈迦像や大聖院のキリシタン灯籠など見どころがたくさんでしたね。

65号は会員の活動報告満載の紙面になりました。

今年もまた実り多い年になりますように。

編集担当（蕨） sawarabi-y@nifty.com